

Zoom によるオンライン授業に関する アンケート調査の分析

— English CALL を受講する 1 年生を対象に —

Analysis of Questionnaire on Online Classes by Zoom: Focused on the First-year Students in English CALL

渡 邊 勝 仁

WATANABE Katsuhito

Zoom ブレイクアウトセッション オンライン授業 アンケート調査 Wi-Fi 環境

1. 目的と背景

本研究の背景として、2020年の新型コロナウイルス (COVID-19) の影響により、東京都内を中心とした多くの大学では対面式の授業は実施せずに、非対面式授業の方法を取り入れた。現在に至るまで、一部の教員を除く多くの教員は、manabaなどの学内ポータルを使用し授業運営を実施してきたが、2020年の春学期は、ほとんどの大学での授業はオンライン授業となり、初めての経験として試行錯誤を繰り返して授業に臨んできたはずである。これは、当然学生にも同じことが当てはまるはずである。

本研究の目的は、都留文科大学の語学教育センターが担当している、1年生を対象とした必修英語科目である English CALL (IJ-B) を受講した学生が、非対面式のオンライン授業にどのような意識を持ったのかを、アンケート調査により把握することである。ここで English CALL という授業に関して、どのような特徴のある授業であるのかを説明する必要がある。授業のタイトル通り English CALL (Computer Assisted Language Learning) は、コンピュータを使った英語の語学学習のことである。この授業の目的は、対面式の授業が可能な場合は、CALL 教室を使用し様々な英語を使用する場面を想定し、4技能 (リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング) を駆使しながら、コミュニケーション演習を行うことである。また、本授業で使用したツールに関しては、Zoom と学務ポータル STEP、さらには、アンケート調査で使用した Web Class、そして教科書に付随する教科書補助用のプログラムである。Zoom では、主にブレイクアウトルームを使用し、ペアワーク、3 から 4 人のグループワークを実施し、学生のスピーキング能力向上を目指した。学務ポータル STEP では、学生への課題の周知と、学生からの課題の提出のために使用した。教科書補助用のプログラムはとても便利なものになっており、授業実施のためのリスニングやビデオ、参考資料、答えなどが含まれているので、Zoom と同時に活用することでアクティブな授業の実施が可能となった。

最後に、2020年4月からの春学期の非対面式授業では、Zoom などを使用したオンライ

ン授業が取り入れられたことにより、これらの授業を受講した学生が何を感じたかについてのアンケート調査の結果を分析し、今後の授業に活用することを目的としている。

2. 先行研究

近年、オンライン授業に関する研究が数多く存在する中、2020年に入り COVID-19の影響もありさらに多くの研究が進んでいる。その中でも、Zoom アプリケーションに関する研究が数多く増えている。Dharma, Asmarani, and Dewi (2017) によると、Zoom での授業は Skype よりも多くの面で優れているという研究結果を発表している。例として、4技能中、ライティングとスピーキングでのプレゼンテーション画面を共有できる点などを挙げている。彼らの研究は2017年に発表されていることから、当時は Zoom よりも Skype のほうが世間一般的には認知度が高かったはずであるが、実験の結果である学生の意見を見てみると、Skype には機能としては存在しない、ブレイクアウトルームがとても便利であり学生にもとても人気が高かった機能であった。しかしながら、Kohnke and Moorhouse, (2020) によると、ブレイクアウトルームは便利である機能であると同時に、その詳細についてはさらなる向上が必要であるとしている。それは、ブレイクアウトルームに教員が参加する際に、多少の不便を感じるとしている。また、Zoom を使用する場合は、ただ単に淡々と授業を行うだけでなく、音声や映像、更には動画を利用して授業を進めることが重要であるとしている (Kohnke, 2019; Lowenthal, Borup, West, & Archambault, 2020; Moorhouse & Kohnke, 2020)。

また、講義の実施内容であるが、大きく分類すると現在に至るまで、3通りの方法があると考えられる。1つ目に、Zoom などを使用した、教員と学生全員が授業を行う形式である。当然ではあるが、小テスト、中間試験、期末試験など、すべての内容はオンラインで実施される。2つ目に、オンデマンド形式である。この方法は、事前に教員が授業をレコーディングして、それを配信する方法である。大きな利点は、同じ講義形式の授業を持つ教員においては、1つのレコーディングで複数の授業に活用できるということである。しかし、学生からの質問などに対し、チャット機能やラインなどを使用し、個別に対応する必要がある。最後に、ハイブリッド授業である。この授業は、教員は教室で授業を実施し、学生は教室、またはオンラインで授業を受ける方法である。この方法は講義形式の授業では、コンピュータやアプリケーションなどにある程度精通している必要があるため、教員に対しての多少の負担はあると考えられる。しかしながら、語学系の授業など多くのペア・グループワークを使用する形式の授業では、教室にいる学生とオンラインの学生をどのようにするかなどの問題は、今後考慮すべき点であると推測できる。

アンケート調査の質問の作成に関しては、ゾルダン (2006, p. 146) によると、質問紙調査からは、多くのデータが得られ、これらのデータは読者にわかりやすく、効果的に提示する技能は研究者に必要な技能の1つだとしている。特に重要なことは、アンケート調査の分析結果は文章で事細かに説明することも重要ではあるが、できるだけ図 (figure) や表 (table) をもちいて視覚的に説明することであるとしている。このことから、鈴木 (2012) のアンケート調査の結果と分析を参考にした。鈴木 (2012) では、より多くの表を主にもちいており、質問ごとに実際の数値を表している。また分析方法も、多くの場合

「非常によく使う」と「よく使う」の数値の合計を示しており、全般的な結果がわかりやすく示されている。さらには、特に必要に応じて各段階の個々の結果についても分析を行っている。アンケート調査の質問作成と結果分析に関しては、これらの要素を考慮して作成した。本調査の研究課題は、アンケート調査の分析結果を明らかにし、今後の授業改善に役立てるものである。

3. アンケート調査

本項では、調査協力者と、調査方法の2つの項目に分けて解説する。また、アンケート調査に関する13の質問を表に示した(表1参照)。さらに、最後の質問である14に関しては、自由記述であるためその回答を参考資料2に表した。

3-1. 調査協力者

対象となった調査協力者である学生は、2020年春学期に都留文科大学において実施されたEnglish CALL (IJ-B)の授業を履修した、文学部国文学科の1年生合計18名である。

3-2. 調査方法

今回対象となったEnglish CALLの授業履修者に対して、2020年春学期最後の授業後において、都留文科大学学内サイトWeb Classのアンケートを使用しアンケート調査を行った。アンケート調査を実施する前に、アンケート調査協力者である全学生から同意書を記入させることが必要であったが、非対面式の授業であったため、アンケート調査同意文「オンライン授業に関するアンケート」(参考資料1参照)として、調査開始前に提示した。アンケートの質問項目に関しては、篠崎(2015)や中西(2008)、藤原(2013)を参考に作成した。質問項目は合計14項目であり、4段階評価(とてもそう思う、そう思う、そう思わない、全くそう思わない)を導入した(表1参照)。この4段階評価を採用した理由として、5段階評価の項目の1つである「どちらともいえない」を含めると、これを選択するアンケート協力者が増えることを防ぐためであった。質問1~13の質問は、4段階評価であったが最後の質問14に関しては、自由記述とした。この質問を追加することによって、学生からの率直な意見が得られるからである。

表1. アンケート調査の質問項目

	質問項目
1	オンライン授業を通して、英語を効果的に学ぶことができた。
2	オンライン授業に対して、やる気を持てた。
3	現在のコロナ問題が解決されても、将来的にオンライン授業を履修したい。
4	オンライン授業を通して、ほかの学生と意見交換ができた。
5	オンライン授業に関するサイバープライバシーが気になった。
6	オンライン授業を受講するために、大学から十分なサポートがあった。

7	オンライン授業に参加するための、自分のインターネット環境は適切であった。
8	オンライン授業に参加するための、大学および指導教員のオンライン教育システムは十分整っていた。
9	オンライン授業用のテクノロジーやアプリケーションの使用に慣れることができた。
10	オンライン授業に参加するために、英語担当教員から十分なサポートを得られた。
11	普通の授業と違って、今回のオンライン授業は別の評価基準が必要だと思う。
12	通常のS,A,B,C評価より、今回のオンライン授業の評価は合格/不合格(PASS / FAIL)だけで評価されるべきだ。
13	担当教員は学生を評価するときに、普通の授業より大目に見て評価するべきだと思う。
14	今回のオンライン授業に関して、どんなことでも良いので、あなたのご意見をお聞かせください。

実際のアンケート調査実施の時期は第15回目の授業が終了した時点で、学生に都留文科大学学内サイト Web Class で実施するように説明した。回答時間に制限はなく、最後の14問までなるべく記述するように伝えた。

4. 結果

文学部国文学科のIJ-Bクラスの質問1～13番までの回答数を表した図は、以下の図1の通りである。全般的には、「ある程度そう思う」と「あまりそう思わない」が多い結果となった。すべての質問に関して、このような状況である。しかしながら、Q13に関しては、「とてもそう思う」が7で、「ある程度そう思う」が8であったため、質問の内容である「担当教員は学生を評価するときに、普通の授業より大目に見て評価するべきだと思う」と強く感じている学生が多かったことになる。

図1. からの特筆すべき項目として、Q6の質問である「オンライン授業を受講するた

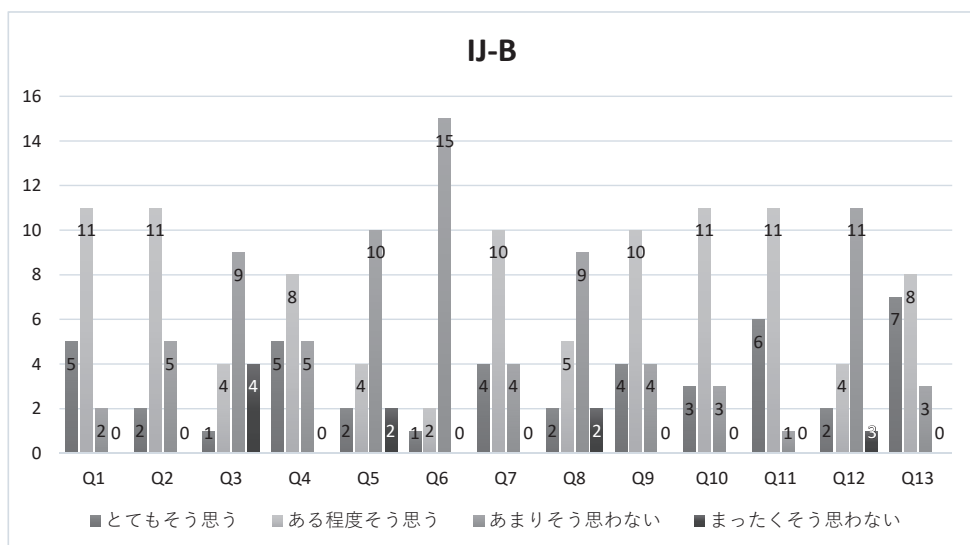


図1. IJ-B

めに、大学から十分なサポートがあった。」に関して、「あまりそう思わない」が15であり、約83%の学生がそう思っていたということである。さらに、Q11の「普通の授業と違って、今回のオンライン授業は別の評価基準が必要だと思う」に関しては、「あまりそう思わない」の1名以外すべての調査協力者の17名は、「そう思っている」と回答している。Q1の「オンライン授業を通して、英語を効果的に学ぶことができた。」に関しては、「とてもそう思う」が5で、「ある程度そう思う」は11であった。結果的におよそ90%の学生が、効果的に学べたことになる。Q10の「オンライン授業に参加するために、英語担当教員から十分なサポートを得られた」に関しても同じような結果になった。Q10に関しては、「とてもそう思う」が3、「ある程度そう思う」が11、そして「あまりそう思わない」が3で合計17回答であるが、未回答が生じたため、このような結果になった。Q13の「担当教員は学生を評価するときに、普通の授業より大目に見て評価するべきだと思う。」に関して、「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」の合計数が、15であり全体の約83%となっている。オンライン授業を受講したことにより、何か苦労した点が多かったと考えられる。

5. 考察

本項では、データの数値を参考に考察する。パーセンテージの割合を含めた数値に関しては、以下の通りである（図2参照）。

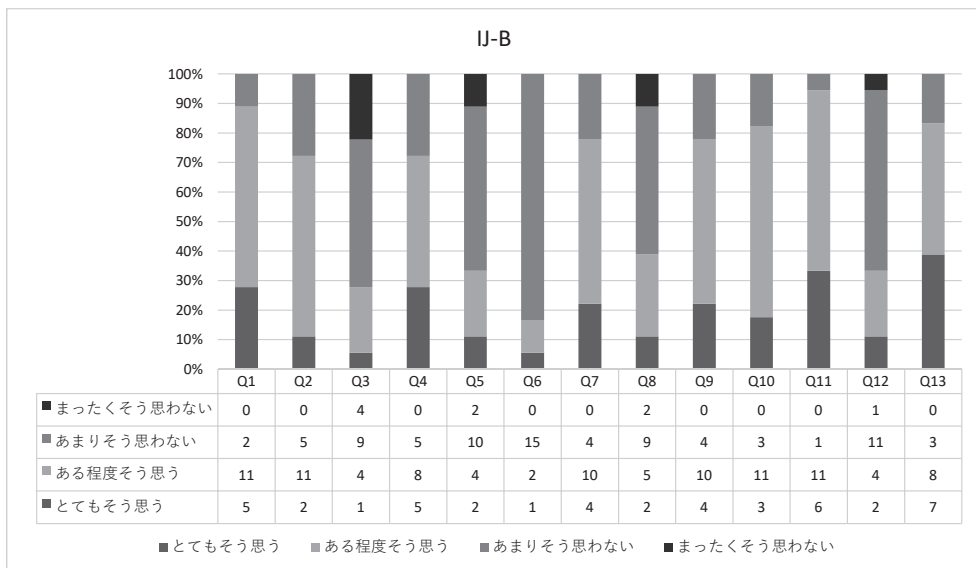


図2. IJ-B (2)

4択式の全13問の質問の回答は、大きく分けてA, B, Cの3つに分類することができる。分類Aは質問1と質問11で、「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」の割合がおおよそ90%以上に達している。分類Bに関しては、Q2, 4, 7, 9, 10, 13で、「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」の割合がおおむね70%台であった。分類CのQ3, 5, 6, 8, 12は、「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」の割合が半数を下回る数値であった。これらの結

果を踏まえて各分類項目を考察し、最後に Q14の自由回答を考察する。

5-1. 分類 A

Q1と11は、「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」の割合がおおよそ90%で、まったくそう思わないが0回答であった。

Q1 オンライン授業を通して、英語を効果的に学ぶことができた

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない	回答なし	計
人数(人)	5	11	2	0	0	18

Q1は、オンライン授業で英語が効果的に学ぶことができたかどうかを問う質問で、ほとんどの学生が非対面式の授業でも問題なく学習できていたということである。「とてもそう思う」と回答した学生は約28%の5名であり、「ある程度そう思う」と回答した11名の2つを合わせると、16名で約90%である。「あまりそう思わない」と回答した学生は、2名であった。これは全体の11%である。

Q11 普通の授業と違って、今回のオンライン授業は別の評価基準が必要だと思う

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない	回答なし	計
人数(人)	6	11	1	0	0	18

Q11に関しては、「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」を合わせると17名の学生が、そのように思っていたということになり、約94%の学生がこのように感じていたことになる。この数字は、本研究の最高値であった。これは特にオンライン授業で使用したZoomに、まだ慣れていなかったことを思い返して回答したと考えられる。授業の内容だけではなく、慣れないZoomを屈指して努力してきたのだから、評価基準を少し下げるとの考えからこのような数値となったと考えられる。

5-2. 分類 B

ここでの質問はQ2, 4, 7, 9, 10, 13であり、「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」を合わせると、の割合が70%であった。

Q2 オンライン授業に対して、やる気を持てた

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない	回答なし	計
人数(人)	2	11	5	0	0	18

Q2では、Q1の効果的であったかどうかの質問で大多数の学生がそのように感じていたのとは違って、一部の学生はあまりやる気が出せなかったと推測される。これについてはQ14の自由回答にも関連するが、面識もない初対面の学生と、オンライン上でペアワークやグループワークを行う上で恥ずかしいという気持ちが生じ、あまりやる気が出なかったと考えられる。今後は、このような学生に考慮し、実際の授業でのペア・グループワークを実施する以前に、学生同士お互いが慣れる環境を整えることが重要である。

Q4 オンライン授業を通して、ほかの学生と意見交換ができた

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない	回答なし	計
人数(人)	5	8	5	0	0	18

Q4では、「とてもそう思う」と回答した学生は、5名で全体の約28%であった。さらに、「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」を合わせると13名で、全体の約72%であった。ほかの学生と意見交換をするには、ある程度ペア・グループワークで自己に関する情報の交換を行う必要があるが、あまり得意でない学生は、意見交換にまでは発展しなかったと推測される。ここでも、学生同士が情報交換できるようにクラス環境を考えたい。

Q7 オンライン授業に参加するための、自分のインターネット環境は適切であった

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない	回答なし	計
人数(人)	4	10	4	0	0	18

Q7はインターネットの環境に関する質問で、多くの大学関係者が懸念していた問題であったが、「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」を合わせると14名で、概ね8割近くの学生が適切であったと回答した。また大学内の教室などが使用可能でもあったため、大学内のWi-Fiを利用できたことが1つの要因であったと考えられる。今学期以降の授業では、オンライン授業への慣れやネット回線の問題改善が考えられるため、さらに高い数値が期待できるのではないかと推測される。

Q9 オンライン授業用のテクノロジーやアプリケーションの使用に慣れることができた

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない	回答なし	計
人数(人)	4	10	4	0	0	18

Q9はQ7とまったく同じ回答数値であった。テクノロジーやアプリケーションの使用に慣れることができたかどうかによる質問で、日常生活においてスマートフォンには精通している多くの大学生は、就職後にパソコンを使いこなせないなど、就職後の職場で問題になっているが、今回の授業ではパワーポイントのスライドショーを作成し、Zoomでグループ発表を行う機会があったため、この数値になったと考えられる。

Q10 オンライン授業に参加するために、英語担当教員から十分なサポートを得られた

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない	回答なし	計
人数(人)	3	11	3	0	1	18

Q10は担当教員から十分なサポートが得られたかどうかに関してで、アンケート調査開始以前の同意文では、調査結果は成績に関与しないことが記されていたため、特に春学期初頭の数回の授業において、Zoomに関する使用方法を指導したため、Zoomに関してのサポートが良かったと回答した学生が多かったと考えられる。

Q13 担当教員は学生を評価するときに、普通の授業より大目に見て評価するべきだと思う

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない	回答なし	計
人数(人)	7	8	3	0	0	18

最後のQ13は、「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」を合わせると、15名(83%)の学生が、そのように感じていた結果となった。しかしながら、「とてもそう思う」と回答した学生が7名であり、本研究の最高値であったため、やはりオンライン授業では、つらくて大変な思いをさせられてと考える学生が多かったようである。

5-3. 分類C

この項目では、Q3, 5, 6, 8, 12に関する質問を考察する。「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」の割合が半数を下回った質問内容である。

Q3 現在のコロナ問題が解決されても、将来的にオンライン授業を履修したい

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない	回答なし	計
人数(人)	1	4	9	4	0	18

Q3は、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」の割合が約72%であった。7割以上の調査協力者は、将来的にオンラインでの授業を望んでいないという結果である。Q1の「オンライン授業を通して、英語を効果的に学ぶことができた」の質問の結果と比較すると、オンライン授業では効果的に学ぶことができるが、将来的には対面授業を望んでいる学生が多数存在したことになる。この質問事項に関しては、長期的なデータとその分析が必要になってくると考えられる。

Q5 オンライン授業に関するサイバープライバシーが気になった

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない	回答なし	計
人数(人)	2	4	10	2	0	18

Q5は、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」の割合が約67%であった。2020年4月・5月の時点で、Zoomセッションにおいて、授業に関係ない人物が入り込む事例について多方面で触れられていた。今回のEnglish CALL クラスでは、このような事例は見受けられなかったが、多くの学生は大学近辺の集合住宅に居住し、建物の住人全員で使用可能なWi-fiを利用し授業に望んでいた。このことから、一部の学生はサイバープライバシーが気になったのではないかと考えられる。

Q6 オンライン授業を受講するために、大学から十分なサポートがあった

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない	回答なし	計
人数(人)	1	2	15	0	0	18

Q6は、十分なサポートがなかった、またはあまりなかったと答えた学生は全体の83%であった。「あまりそう思わない」と回答した学生が15名であり、本研究の最高値である。この数値から、大学側も最善の努力をして学生をサポートしてきたことは周知のとおりであるが、特に1年生などは、自分の質問をどこで誰に聞けばよいかなどが、理解できていなかったのではないかと考えられる。このために、大学側のサポートが十分ではなかったと感じていたと考えられる。しかしながら、今回のコロナ禍で、都留文科大学は山梨県に所在しており、都内の大学などとは多少異なった環境にあったため、学生は大学に来て質問などができる状況にあったと考えられる点では、恵まれていたのではないかと推測される。

Q8 オンライン授業に参加するための、大学および指導教員のオンライン教育システムは十分整っていた

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない	回答なし	計
人数(人)	2	5	9	2	0	18

Q8の質問で、内容は大学と指導教員に関する質問であり、この2つの「大学」と「指導教員」は、別々の質問にする、また大学のみにする必要があった。その理由として、大学にはWeb Classや学務ポータルSTEPなどがあり、オンライン教育システムは十分に整っているからである。

Q12 通常の S,A,B,C 評価より、今回のオンライン授業の評価は合格 / 不合格 (PASS / FAIL) だけで評価されるべきだ

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない	回答なし	計
人数(人)	2	4	11	1	0	18

最後に Q12の質問であるが、約70%の学生が否定的であった。この質問を採用した背景には、海外の大学などで合格 / 不合格の評価を取り入れたためであった。この評価方法はアメリカの大学などでは一般的で、筆者がアメリカの大学院に留学していた際、1単位ではあったが Credit (Pass) の評価で、合格となった。この単位は Grade Point Average (GPA) には反映されず、修士課程修了単位には組み込まれる。このようなことから、学生がどのように感じているかを把握するためにアンケート調査の質問に取り入れた。しかしながら、新生生にはあまり一般的ではない内容であったため、「あまりそう思わない」を選択した学生が多い結果となったと考えられる。

5-4. Q14の自由記述

自由記述の質問に関しては、English CALL (IJ-B) の授業を履修した、文学部国文学科の1年生合計18名以外にも調査協力をしてもらい、実に合計61名の調査協力者からの貴重な意見を聞くことができた。特に多かった意見は、ブレイクアウトセッションに関してであった。Zoom のこの機能が学生に好まれた理由としては、ランダムに授業内の学生を瞬時にペア・グループに分けて各セッションに移動させ、さらにホストである教員が時間を設定することができたからであると考えられる。特に多く使ったのは3・4人のグループで、学生同士のコミュニケーションの向上を狙いとした。このブレイクアウトセッションに関して、より多くのクラスメートとコミュニケーションがとれた点について触れている記述をした学生が多く見受けられた。さらには、ブレイクアウトセッションでの、多くのグループワークが楽しかったという記述もあった。さらに、「グループセッションを通して交流することができて良かったです。楽しかったです。」という記述もあり、また、「グループワークセッションで友達もできたので嬉しかったです。」との回答もあり、ブレイクアウトセッションは、少人数の語学系オンライン授業では効果的な機能であり、今後はより多くの教員が活用することを強く願っている。

もう一つ触れるべき項目として、多くの学生はオンライン授業を受講するなかで、座ったままで同じ姿勢を保ちつつ、コンピュータ画面を長時間にわたり直視することが必要不可欠であった。この結果、身体的に疲労がたまり、目が疲れたり肩や腰などに痛みを感じたりとの回答が多く見受けられた。さらには「オンライン授業は精神的負担が多いように思いました。」との回答があったように、多くの学生はZoomでの「顔出し」に苦痛を感じていたと考えられる。筆者の担当した3つのクラスでは、語学の授業ということであり、会話は相手の表情も内容理解に関しては、重要な要素となってくるので、「顔出し」が必須であった。この「顔出し」があったために、集中力を保ったまま授業に参加できたとの回答もあったが、一部の学生は少し恥ずかしかったようである。

6. 結論

結論としてアンケート調査の結果から、オンライン授業でのZoomなどのアプリケーションの使用は、現時点では効果的である。ブレイクアウトセッションを使用することで、より多くの学生が他の学生とのアクティビティの機会が与えられるからである。ただ単に、レクチャースタイルの、教員から学生への一方的な講義では成り立たない語学系の授業には、有効活用できると考えられる。しかしながら、Wi-Fi環境の整備などの大学側のサポートの確立は、今後検討されるべき項目である。さらには、担当教員の学内ポータル利用などを含む、オンラインサポートの提供が重要になってくると考えられる。また、1学期間において、全15回の授業をオンラインで実施するのではなく、回数や日程などをあらかじめ指定して、対面授業と両立できるような環境整備が重要課題であると推測される。

また、他大学との比較であるが、一点目として、都留文科大学の筆者の授業に関しては、本来Zoomに入室してくるべきではない人物、いわゆる嫌がらせ行為などを行う部外者は存在しなかった。しかしながら、筆者の経験から他大学の授業では部外者が入室したことがあり、今後のオンライン授業に関する課題となった。二点目は、都留文科大学としての、オンラインアプリケーション（Zoomなど）の使用に関してである。一部の都内の大学では、Zoomなどのアプリケーションの使用に関して、大学が運営機関との提携を行い、教職員と学生が無料で使用可能となり、さらには使用に関しての問題などを解決するサポートも提供されている。これらの点で、今後の都留文科大学に関しての課題が明らかになったと考えられる。

7. 今後の課題

今回の研究は、2020年春学期における、全15回の授業を対象としたアンケート調査をもとにした結果であるために、さらなる長期的な研究が求められる。本研究の分析結果から、今後の講義に活用することで学習効果を高められる点として、非対面授業が前提であるため、授業初回においてオンラインアプリケーションを使用し、十分な学生同士の自己紹介など、2回目以降の授業において、ブレイクアウトセッションなどで円滑なペア・グループワークを実施できる努力が必要とされる。このことにより、他の教員や講義などでこの方法を応用することで、新型コロナ以後の遠隔講義において意義があると考えられる。

また、質問内容に関しても、重複する内容があったため回答に混乱した学生がいたと考えられる。また、最後のQ14では、質問内容が「今回のオンライン授業に関して、どんなことでも良いので、あなたのご意見をお聞かせください。」と、漠然としていたために履修授業全般的な回答も見受けられた。結果的に、今後は具体的な内容でのアンケート調査が必要とされる。

参考文献

- Dharma, H., Asmarani, D., & Dewi, U. (2017). Basic Japanese Grammar and Conversation e-learning through Skype and Zoom Online Application. *Procedia Computer Science*, 116, 267-273.
- Kohnke L. (2019). GoSoapBox – Encourage participation and interaction in the language classroom. *RELC Journal*. DOI: 10.1177/0033688219872570
- Kohnke, L., & Moorhouse, B. L. (2020). Facilitating Synchronous Online Language Learning through Zoom. *RELC Journal*, doi.org/10.1177/0033688220937235
- Lowenthal, P., Borup, J., West, R., & Archambault, L. (2020). Thinking Beyond Zoom: Using Asynchronous Video to Maintain Connection and Engagement During the COVID-19 Pandemic. *Journal of Technology and Teacher Education*, 28 (2), 383-391.
- Moorhouse BL, Kohnke L (2020). Using Mentimeter to elicit student responses in the EAP/ESP classroom. *RELC Journal* 51 (1) : 198-204.
- 大塚朝美、上田洋子 (2012). 「中学・高校での発音学習履歴と定着度：大学1年生へのチェックシートと質問紙が示唆するもの」『大阪女学院大学紀要』8, 1-27.
- 篠崎文哉 (2015). 「日本人が目指すべき音声とは：中学生を対象としたアンケート結果から」『日本国際教養学会誌』1, 62-72.
- 鈴木智美 (2012). 「留学生の辞書使用についての実態調査—東京外国語大学で学ぶ留学生へのアンケート調査の結果と分析—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』38, 1-21.
- ドルニエイ・ゾルタン (2006). 『外国語教育学のための質問紙調査入門』松柏社, 東京.
- 中西のりこ (2008). 「英語発音学習に対する学生の意欲と動機付け」『コミュニケーション研究叢書』6, 49-57.
- 藤原愛 (2013). 「日本人初級英語学習者の発音習得に対するビリーフ」『育英短期大学研究紀要』30, 37-45.

参考資料 1

オンライン授業に関するアンケート

以下の質問は英語の非対面授業に対する学生の全体的な意見について伺うためのものです。このアンケートの結果は、授業の質を向上させるための研究に使用させていただきます。上記の目的以外では一切使用いたしません。どうぞご理解の上、ご協力の程よろしく願います。現状について率直に回答してください。また、このアンケートの提出をもって、研究を目的とした使用に同意していただいたものとさせていただきます。成績には一切関係いたしませんので安心して全ての項目に正直にお答えください。

無記名式のアンケートです。

集計結果に氏名などの個人情報は表示されません。

参考資料 2

Q14の回答

IJ-B

<p>オンライン授業は精神的負担が多いように思いました。後半の方は「あっ今日顔出し必須の授業ある」と思うとつらいと思うこともありましたが、授業内で同級生とかかわりはあっても基本一人なので、虚無感がすごかったです。ただ、対面に比べて時間に余裕がある点や、先生との距離が近いように感じられたのはいい点だと思いました。</p>
<p>画面をずっと見ていることで、目が疲れたり、ずっと座っていることで、腰に痛みがきたりして、全体を通してオンライン授業で良かったと思う点は私には見つかりませんでした。</p>
<p>ブレイクアウトルームでのグループ活動では、積極的に話してくれる人は少なく、対面授業だったらなと思うことが多々ありました。</p>
<p>英語の授業なので、やっぱりお互いの顔を見たり、お互いに話をするのができたのはよかったです。普通に対面授業をするのとほぼ同じようなクオリティでできていると思います。</p> <p>でも、やっぱり対面の方がコミュニケーションがとりやすいし、ブレイクアウトセッションで一緒になっても、そこから先がないので友達には発展しません。(英語には関係ないですがすみません)</p> <p>後期は対面でできるなら対面で授業を受けたいです。</p>
<p>全く知らない人たちといきなりペアで話すのがつらかった。</p>
<p>オンライン授業では、グループが分かれたときに誰が初めに話し始めるかや、あったことのない人とどれだけ深くまで掘り下げて会話するかなど、様々な問題があったようにおもいます。対面授業とは異なり、一つの問題に対する時間配分などの決定も難しかったのではないかと思います。授業としては教科書どおり順調に進んでいったようですが、効果的に学べたかという疑問が残ります。また、2回に1回程度出される教科書の課題がPCで英文を作成するタイプのもので、手書きよりも相当の時間を要してかなりの負担でした。</p> <p>画面に自分の顔が映るのが苦痛でした。</p>
<p>オンライン授業では、意見交換や発言の時にタイムラグが発生したり、相手の様子が分かりにくかったりして大変だった。日常生活でいかに人の様子を細かく確認しながら話しているかを痛感している。やはり、対面授業が一番であると思う。</p>
<p>アプリの機能でグループ分けをすることで、スムーズな意見交換につながったと思う。しかし合同発表の準備が不便であったので、個人的には直接対面する授業が望ましい。</p>
<p>この講義に関しては、先生のサポートもあり、積極的にオンライン授業に参加できたと思います。</p>

アルクに関してなのですが、録音をしなくてはならない課題は環境的に他の音が入ってしまうことがあるため出来なかったのですが大丈夫なのか気になりました。

いまは慣れたので大丈夫ですが、初めてのグループワークは本当に戸惑いました。

その他の授業から

たまに回線の不具合が生じてしまったので早くから大学がオンライン授業に対する説明や対応があったほうがよかった。実際5月はアパートのネット状況がよくなく、実家に帰ってオンライン授業を受けたのに加え実家の回線を強くしなければいけず、経費の面でもお金がかかった。そのためこれからもオンライン授業を継続するのならば学校からの補償費などがあったほうがいいのではないかと思った。

一つ、非常に先生方も柔軟に対応してくださっており、学生としてもとても助かりました。しかしながら、例えば英語の試験に於いて「プレゼンテーションを『リアルタイムで行う』といったものであると、気ままに発声できる自宅にてオンライン授業を受ける生徒と、他学生がいるため周囲への配慮から声量をしぼり、ボソボソとしゃべらなくてはいけない「履修の都合上大学構内でオンライン授業を受けざるを得ない」生徒の評価に於いて差が生まれてしまうように思えた。二つ目としては、大半の先生がお忙しい中でもお返事を下さり助かっておりましたが、残念なことに指定された方法を用いてご連絡させていただいたものの、ご多忙からかお返事を頂けていなかったり、「Webclassのメッセージ機能は私は見ていないし見ない。」と主張される先生がいらっしゃるのも事実であり、大学側のオンラインサポートが適切なものであったとは言い難い。事実として私はある授業でメッセージを1週間近く放置された上に、「Q & A」、「個人のメールアドレス」と持ちうる全ての手段を講じてようやくご連絡を頂いた。各授業に於いて先生方の連絡方法の徹底や、絶対に連絡のご確認をしていただけるメールアドレスをシラバスに記載する等の改善を頂きたい。

電波が悪い時に困った。

なかには課題だけをただ与えられるだけの授業もありました。それを考えるとこの英語の授業は会話を遠隔の中でもブレイクアウトセッションを用いて導入することで、双方向のコミュニケーションができたと思います。どの授業も遠隔だとしても、もっと公平に評価されるようになったら良いなと思います。

普段の授業に対する成績評価の割合を大きくしてほしいと思いました。試験の分の評価が班プレゼンでの班共通の評価だと、通常よりも、個人の努力で成績が伸びにくくなっていると感じます。

通信環境が悪かったためとても不便に感じた。

対面ではない分、反応しにくかったり発言がしにくかった。また、簡単に手を抜けてしまうのも問題だと思った。友達と一緒に授業を受けたときに、通信に問題が出てしまった。

ネット環境を整え続けることは容易ではないです。パソコンの容量も増える一方でその面のサポートがなされていない気がします。オンラインだからこその授業形態があることはメリットになると思います。たとえば、パワーポイントを使った発表はとてもいい経験になると思いました。このようにメリットもあるので改善すべき点を改良すればとてもいい授業形態になると思いました。

オンライン授業であってもグループワークが多くあった点は良かったと思う。

オンラインであったことから不慣れなことも多々あったが、しっかりと勉強できたように思う。
課題がすごく多かった。
一年生にとっては大学の空気感などを得ることが出来ないと思う。
オンライン授業は最初の方は良かったけど、後半疲れてきました。顔を出して授業するのがちょっといやでした。
意見交換をオンライン授業でする講義は毎回、回線が切れないかどきどきしながらしていました。慣れるまでは、不安はやはり大きかったですが、慣れてからは大きな問題なくオンライン授業に参加できました。
前期授業はオンライン授業となりましたが、オンライン授業だからこそ、多くの人とコミュニケーションをとることができたと思う。与えられて環境の中で最適な学習方法を探ることも必要なため良い機会となった。
オンライン授業で英語のように実践的にできたら楽しかったが、パソコンに一日中向き合っているのは正直しんどいなと思うことがあったり、パソコンを見るが増え疲れを実感しやすくなった。
オンラインの授業ではあったが様々なことを学ぶことができ有意義な時間になった。また、ほかの講義ではZoomをやるときにカメラはオフにしてやるが、この講義ではカメラをオンにすることでやる気がずっと保っていた。定期的なブレイクアウトセッションでは英語のことのみならず、様々な話をするのができたのもよかったと思う。対面授業との併用は大変な部分もあったが何とかやりきることができてよかったと思う。後期はぜひ対面での授業をできたらいいと思う。
時々こちらがサーバーダウンしてしまうことがありましたが、授業ペースがゆっくりめだったので、追いつくことが出来たので良かったです。先生も生徒も手探り状態でしたがよい授業が出来ていたと思います。
前期の授業をありがとうございました。私は英語が得意でも苦手でもないですが、英語という科目は大好きなので、大学での授業を楽しみにしていました。対面ではなくオンラインの授業と決まったとき、なれないことをするのは嫌だし、初めての大学の授業なのに前例のないことをするというのに大きな不安を覚えました。しかし、いざ始めてみると本当に楽しくて、毎週火曜日3限目が楽しみになるくらいにEnglish CALLが好きになりました。引っ込み思案な私ですが、グループワークを通して協力し合って問題を解くことで、友達を作ることもできました。
後期の授業は対面で行えるかもしれないとのお話に、うれしくなりました。後期授業で先生やクラスメートに遭える日が待ち遠しいです。ありがとうございました。
ありがとうございました！！
ブレイクアウトでのコミュニケーションがやりにくく感じました。みんなが気を遣って発言できなかったことが少なからずあったので、後期もオンライン授業が継続されるならば積極的に発言していきたいと思います。
遠隔授業になったことで英語に大切なコミュニケーションをとることができないかもしれないと思いましたが、グループセッションを通して交流することができて良かったです。楽しかったです。課題の提出に関しては私自身、パソコンを使って教科書の問題を書き写して解くということは初めてだったので戸惑いました。慣れるまでに時間がかかってしまいました。
オンライン上だと少し会話しにくいと感じました。

<p>機関トラブルが起きた時の対応が難しいと思った。なぜなら、前期のオンライン授業では私に機械トラブルが起き、声が出せなくなったとき、打つ手が無くなり、何もできずにオンライン授業が終わってしまったからだ。このことから対応が難しいと感じた</p>
<p>ブレイクアウトタイムで皆と意見を交換できたのがよかったと思う。対面のほうが、もっと深く英語を学ぶことができると思った。</p>
<p>グループワークセッションを通して友達ができただけでうれしかったです。また、先生が、英語だけでなく日本語でも説明してくださるのでとても助かっています。</p>
<p>ブレイクアウトセッションなどを多く用いてくださったため、少なからずみんなと話せて一緒に学べて楽しかった。</p>
<p>通常授業であればディスカッションも固定の友人と行なうことが多くなるように予想されるが、オンライン授業では先生の方からランダムでグループを決めるため通常授業でいう座っている座席に関係なく、短時間で様々な学生さんと出会うことができたのは非常に良かったと思っている。新入生で知らない人ばかりでそれなのに急にディスカッションしなければならなかった最初の頃は躊躇する部分もあったが、次第に慣れていくうちにそのシステムが友人の輪を広げたため、逆に今はよかったとも感じている。学籍番号が離れており、普段の他の授業では一緒になる機会の少ない学生さんにも会うことができた点には今後の大学生活を考えるうちで非常にメリットであったと考えている。しかし、媒体を通しての関わりであったためふと振り返ると寂しさも覚える。知り合い、友人になれたのに会えないもどかしさもあった。オンラインにも利点はあったが、個人的には対面で授業するのが好みに合っている。</p>

その他の授業から (2)

<p>大変な状況の中、できることを最大限にやってくださった先生に感謝します。英語の授業に限らないが、たくさん課題がある中で時数の多いレポートや締め切りの近い課題をいくつも課すのは生徒の心身的・肉体的疲労がたまるとはよくないと思う。もう少し生徒のことを考えたうえで課題を課すべきだと思う。あとはもう少しレポートの書き方についてもっと教えるべきだと思う。レポートに関しては初めて書く人がほとんどなのにも関わらず、いきなり字数が多いレポートを課すのはよくないと思う。</p>
<p>会ったことがない人と画面越しで会話しないといけないのは大変でした。</p>
<p>目が疲れたり、話す活動があるため窓を閉めて行い飲み物も飲めないというのが授業2つ続くと熱中症になりかけることが何回かあり危ないと思いました。</p>
<p>ネット環境が原因で授業に入りにくい時があった。今は、課題の提出がいちばん成績評価に関わっていると思うので、ちゃんと提出できているのか不安だった。課題を受け取りましたという確認メールなどがあったら助かる。(安心できる) また、機械上のトラブルで課題が出せていなかったとしたら、それが成績に影響していたら嫌だなと思った。</p>
<p>土日の休日も課題やレポートが多いため、課題を行うことが多く常にパソコンを見ている状況が続き目の疲れが気になった。</p>
<p>自分のネット環境が悪く、授業の前半はグループアウトセッションに入れず、申し訳なかった。</p>
<p>意欲的に zoom でも生徒同士で会話できたので良かったです。</p>
<p>オンラインと言うやりずらい状況の中でとても楽しい授業をありがとうございました。</p>
<p>自分のネット環境が悪く zoom から落ちること何回かあったので申し訳なかったです。</p>

オンラインで授業をするとどうしても頭に入りずらかったり発音など難しかったりする のでやりにくいと思った。
雨の日は通信が悪くなってやりにくかった。
教科によっては zoom など全く使わずに資料だけの授業もあり、なかなか理解しにくい のでそういったことがないようにしてほしい。
自分のネット環境が悪く、音声途切れたり切断されたりしてしまい、完全な環境で授 業を受けられませんでした。また、学校で授業を受けるよりも、自宅で授業を受けると やる気が出ないというのが正直に思ったことです。
担当教員の通信環境が悪く、音声がいきなり大きくなるがあったため、確認を生徒 にしてもらいたい。
毎日学務ポータルを見なければいけないので、ストレスがたまりました。もしも、オン ライン授業開始を見落とししていたらと思うと怖いです。後期はできれば対面授業を受け たいです。
オンラインに慣れるまでが大変でした
対面がいいです
慣れるまでは大変だった。(コミュニケーションをスムーズにとることが主に)
声が時々大きくなるのが驚いたし、耳に悪かったと思う。
オンラインでしたが、授業がスムーズに進みが遅れることなく、また自分がついていけ なくなるのがなくてよかったです。また、ブレイクアウトルームを通して無作為に話 し合いの人が選ばれるので、対面授業よりもたくさんの人とつながりを持ってよかったです。 グループでの発表テストもやっていて面白かったです。
大学側からもっと支援があってもよかったですのではないかと思います

Received : September, 30, 2020

Revision received : November, 17, 2020

Accepted : December, 2, 2020

